

連載企画：つながる

第4回 パワー全開の女性たちに訊く

「つながり上手になるために!」

～ワイワイ、ガヤガヤ、
とことん、つながろう!～

学生会員
佐竹わか菜
信州大学大学院



学生会員
小田僚子
東京工業大学大学院



人、都市、文化をつなげ、さまざまな分野と結びつく土木。土木工学はあらゆる局面でつながりを持つ工学である。また、人との心のつながりが大事になる業界でもある。本企画では、「つながり」をキーワードに様々な分野で活躍される方々へのインタビューを通して、土木業界に関するご意見を伺う。

第4回目の今回は、平成17年1月に開催された「女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム」を紹介する。これは女性たちが「つながり」をテーマに「道づくり・まちづくり」のホンネを語った、元気いっぱい・パワー全開のフォーラムである。

今回は私たち学生編集委員の女性メンバー2人が実際にフォーラムに参加し、つながり上手な女性たちの秘密を探ってきました!これであなたも「つながりの達人」に近づけること間違いナシです。

まずは…、「女性が語る道づくり・地域フォーラム」って?

平成17年1月22日(土)・23日(日)に、第二回目の開催となる、全国みちづくり女性団体交流会議「女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム」が東京国際フォーラム他で開催されました。これは道づくりに関わる40の女性団体が全国から集い、互いに交流を深める交流会議です。2日間に亘って下記の4つのプログラムが開催されました。

みちづくりワークショップ：『つながり』をテーマにみんなで勉強会

みちづくりTalk, トーク, とーク：参加者みんながつながりを深めた交流会

みちづくり探検ツアー：“粋なまちづくり”に取り組む神楽坂（東京都新宿区）を探検

みちづくりConference：参加団体が一堂に会して話し合った全体会議

今回のフォーラムの座長を務められた、森美佐枝さんに伺いました。

◆フォーラム開催のきっかけを教えてください

私は最初、静岡で道づくりに関する会に所属していました。そして、活動を通じて新潟で同様の活動を行っている女性と出会いました。この縁で、私の地元静岡と新潟を結ぶ“中部日本横断自動車道”づくりを提案しようと、沿線4地域の女性団体に呼びかけて平成15年2月に交流会を開きました。そして次はもっと交流の輪を広げようと全国の女性団体に声を掛け、同年11月に、女性団体の交流の場として第一回目の「女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム」を開催しました。

しかしこの時は「道路が欲しい」という要望ばかりが目立ったため、次は「自分達に何ができるか」という具体的な内容をもっとよく考える必要があると感じました。そうして、今回の第二回目のフォーラム開催に至りました。

◆なぜ、女性のフォーラムなのですか?

いわゆる生活者という観点からの意見を求めているためです。男性でも、もちろん生活に密着した方もいらっしゃいます。しかし、教育や福祉等の面からでは、女性のほうが気付く意見が多いので、女性フォーラムとなっています。

◆女性のフォーラムの特徴を教えてください。

立場にとらわれない活発な意見が聞けることです。男性は仕事上の立場や階級を考慮して、正直な意見を言えない場合もあります。しかし女性の場合は「こう思うから、こうしたい!」という元気な意見が出てきます。

◆今回の結果はどうなるのですか?

嘆願書として、国土交通省などに提出する予定です。

とことん話そう!「みちづくりワークショップ」

「つながり」をキーワードに、4つのテーマで話し合われたワークショップ（以下：WS）（初日の午後）。ここでは、ルームB「つながりが育むもの」とルームD「みちのつながり最前線」の様子を覗いて見ましょう。

ルームB「つながりが育むもの」

- “道を通じた「つながり」がもたらすもの”を、参加者みんな（北海道から九州まで!）で考えました。
- 会場からは「道路がうまくつながっていないために、自宅から通える教育機関があまり選べない。道路は福祉や教育も兼ねている」という切実な意見や、「道が食文化を創る」「土地のものはその土地へ行って食べるのが一番」といった名言が飛び出しました。出された意見には生活に裏づけされた重みがあり、うなづくこと・共感することがいっぱいでした。



写真-1 フリーディスカッション



写真-2 班対抗で知恵を出し合う

ルームD「道のつながり最前線」

- ユーザーの視点から「あっ!」と驚く新しい「道の使いみち」を、グループ対抗のアイデア合戦で競いました。
- 大賞を獲得したのは、「免許証ETC」という提案でした。「免許証がETCになれば、みんながすぐにETCを利用でき、様々な観光地に出かけることができるから良いよね」という発想からきています。これぞユーザーの視点が大いに活かされた、画期的な提案だと思いました。
- 車好きの大学生にこのアイデアを話したところ、「便利だし、一気にETCが普及するから良い考えだと思う」と歓迎の様子。このアイデア、すぐに実現して欲しいっ!

ワークショップに参加されていた男性にお話を伺いました。

* 静岡県庁にお勤めの石野功さん（技術士）

パワーと迫力がありました。女性は男性とは違って、生活に密着した視点から道づくりを考えており、新鮮でした。

例えば、今までは「道は車や人が通るところ。だからその空間はできる限り邪魔してはいけない。」と考えていましたので、今回出された「お年寄りや体の不自由な方のために、道に座ったり休んだりする空間(施設)があっても良いのでは。」という発想には感心しました。

ちょっと寄り道… みんなで語ろう!「Talk, トーク, とーく」

- 初日の夜は、「Talk, トーク, とーく」と題して交流会が行われました。会場となった有楽町駅付近のダイニングバーでは、グラス片手に皆さんワイワイ・ガヤガヤ。とにかく楽しそうです。あちらこちらで人と人とのつながりが生まれていました。
- 余談ですが…、交流会の帰り道に、韓国人観光客から「この近くにラーメン屋はありますか?」と尋ねられました。私も一緒に探し、しばらくしてお店が見つかった頃には、お互い片言の言葉で話そうになっていました。偶然にも生じた「道を通じた国際交流」、これも1つのつながりですね!



中津・下毛管内の道づくりを考える女性の会
 北浦町の道づくりを考える女性の会
 北川町の道づくりを考える女性の会
 日之影町の道づくりを考える女性の会
 道づくりを考える日田市・門川町・東郷町女性の会
 宮崎みなみ生活ロード女性の会
 ロードネット佐賀



女性が語る道づくり・地域フォーラムにて



今年のテーマは ワイワイ、ガヤガヤ とことん、つながろう!

道

全国みちづくり女性団体交流会議
女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム

「日本の元気は地域の元気、地域の元気は女性の元気!」といわんばかりの、パワー全開の女性たちが集まって、道づくり、まちづくりを思いっきり語り合うフォーラムを計画しました。今年のテーマは「ワイワイ、ガヤガヤ、とことん、つながろう!」

「つながり上手」な女性のチカラをいかして、大いに交流と連携を進めていきましょう!

とき **2005年1月22日(土)、23日(日)**
ところ **東京国際フォーラム** ほか
東京都千代田区丸の内3-5-1 TEL.03-5221-9000

「つながり」をテーマにフリースタイルで女性団体が学びの場を企画します。

- 1月22日(土) 14:00~17:00**
会場：東京国際フォーラム 会議室 G404, 405, 407, 408 参加費 ¥1,000
- 1月22日(土) 19:00~21:00**
会場：ダイコンホールブルドック (銀座インズ)1F, 2F TEL.03-3564-0996
- 1月23日(日) 9:30~12:00**
会場：神楽坂まち歩き ランチ代 ¥2,000
ご案内：寺田弘 (NPO法人おまちづくり推進部 専務)
- 1月23日(日) 13:00~16:00**
会場：東京国際フォーラム ホール07 参加無料

◆参加費 ¥5,000
◆ランチ代 ¥2,000

◆お申し込み先
〒424-0808 静岡県清水大手1-2-11 (ウツシノ森) TEL.0543-65-1384 FAX.0543-65-4941
Eメール irori@morinokomiti.com ホームページ <http://josei.org/mitinet>

主催/女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム実行委員会
お問い合わせ/
〒424-0808 静岡県清水大手1-2-11 (ウツシノ森)
TEL.0543-65-1384 FAX.0543-65-4941
Eメール irori@morinokomiti.com
<http://josei.org/mitinet>

《全国みちづくり女性団体交流会議》女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム

ワイワイ、ガヤガヤ、とことん、つながろう!

参加者募集!

1月22日(土) 14:00~17:00
会場：東京国際フォーラム 会議室 G404, 405, 407, 408 参加費 ¥1,000

1月22日(土) 19:00~21:00
会場：ダイコンホールブルドック 参加費 ¥5,000
(銀座インズ)1F, 2F TEL.03-3564-0996

1月23日(日) 9:30~12:00
会場：神楽坂まち歩き ランチ代 ¥2,000
ご案内：寺田弘 (NPO法人おまちづくり推進部 専務)

1月23日(日) 13:00~16:00
会場：東京国際フォーラム ホール07 参加無料

◆参加費 ¥5,000
◆ランチ代 ¥2,000

◆お申し込み先
〒424-0808 静岡県清水大手1-2-11 (ウツシノ森) TEL.0543-65-1384 FAX.0543-65-4941
Eメール irori@morinokomiti.com ホームページ <http://josei.org/mitinet>

◆バスリスト

- 北海道 小 沢 美 子 (北海道、ゆにハープの会)
- 東北 北 村 真 夕 美 (青森、NPOの森いぬ安全福祉女性会)
- 関東 中 野 半 花 子 (埼玉、NPOの森いぬ安全福祉女性会)
- 関東 東 河 村 新 子 (群馬、グループみんなの道)
- 関東 中 野 平 野 子 (埼玉、まちづくりの会)
- 関西 阪 田 深 雪 (徳島、えひめ道を考える女性の会)
- 九州 脇 野 子 (大分、1000の道づくり推進会)
- ◆県別 森 美 佐 枝 (群馬、全国みちづくり女性ネット)

◆参加申し込み方法
どなたでも(もちろん男性も)気軽に参加できます。下記申し込み用紙にご記入の上、郵送・FAX・E-mailなどで1月15日までにお申し込みください。ホームページからも申し込みいただけます。

(お申し込み先)
〒424-0808 静岡県清水大手1-2-11 (ウツシノ森) TEL.0543-65-1384 FAX.0543-65-4941
Eメール irori@morinokomiti.com ホームページ <http://josei.org/mitinet>

女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム 参加申込書

ふりがな	氏名	Ｅメール
住所	〒	Tel.
所属団体	<input type="checkbox"/> ワークショップ (ルーム: A B C D) <input type="checkbox"/> 希望するものに○ <input type="checkbox"/> Talk,トークとく (交流会) <input type="checkbox"/> 探検ツアー <input type="checkbox"/> みちコン(全体会)	
参加内容	<input type="checkbox"/> ワークショップ (ルーム: A B C D) <input type="checkbox"/> 希望するものに○ <input type="checkbox"/> Talk,トークとく (交流会) <input type="checkbox"/> 探検ツアー <input type="checkbox"/> みちコン(全体会)	

※参加費は当日受付でお支払いください。 ※1日目の参加も大歓迎です。
みちづくりやフォーラムへのご意見ご提案

おかげさまで全国から大勢の皆様のご参加をいただき、終了いたしました。ありがとうございました。

粋なまち神楽坂を歩こう！「みちづくり探険ツアー」

地元の人のご案内をもとに、神楽坂まち歩き。(二日目の午前中)

- 探険前に、NPO「粋なまちづくり倶楽部」の寺田弘氏からレクチャーを受けました。守るべきは「路地に入ったら静かに」ということ。ここは観光地ではなく、人々の生活の場なのです。
- 町の歴史や街路景観、お店の紹介などの説明を寺田氏から受けながら歩いていきます。
- 神楽坂の小さな道、大きな道、坂道…、歩くたびにまちの表情が目まぐるしく変わります。その変貌振りは役者のようでした。
- あっという間に時は過ぎ、私達はスタート地点に戻ってきました。神楽坂の個性あふれる道は、私たちを非日常的世界へと誘い込む、まるで迷路のような素敵な空間でした。



写真-3 老舗旅館の前で(中央が寺田氏)



写真-4 神楽坂の坂道を探険

探険ツアー参加者の感想

* 安保瑠女さん (青森県)

風土が変われば道も変わることには驚きました。私の地元青森の歩道は、積雪を考慮し、東京よりもかなり幅が広く作られています。

* 斉藤留美子さん (秋田県)

今回参加して、細い道や路地も良いなと思いました。神楽坂のように歴史のあるところでも、ちゃんとNPOをつくって、まちづくりに取り組んでいるということに驚きました。

この道の先輩に学ぼう！「先輩にインタビュー」

◆つながり上手な先輩に訊く

フォーラム実行委員のお2人に、つながり上手になるコツをこっそり教えてもらいました。

* 森美佐枝さん

人脈を築き、頼みごとをしても聞いてくれる人を見つけることです。といっても、力関係から成り立つ人間関係や、損得だけを考えた人付き合いではありません。お互いの事を理解し、普段から信頼関係で結ばれるような人間関係のことです。相手と自分との人間関係がしっかりと成り立ってこそ、つながり上手になれると思います。

* 浜中佳芳子さん

「沈黙は金、雄弁はプラチナ」です。話さなければ誰も分かってくれない場合があり、沈黙は必ずしも金となるわけではありません。時には、おしゃべりがプラチナとなるのです。私の場合も、「地元では大雨が降ると道が封鎖される場合があって不便」という体験談を話して伝えることで共感され、現在の道づくり運動へと発展しました。

また、人は、自分の考えに賛同してくれる人についていつい近づきたくなるものです。しかし、それだけでは人間的にも社会的にも駄目になってしまいます。人は仮に痛いことを言われたとしても、聞く耳を持つ人の方が大きくなれるでしょう。

◆土木の道の先輩に訊く

今回は女性技術者の方も参加されていました。未来の技術者に一言お願いします！

* 瀬戸民枝さん (新潟県庁)

土木は自分がつくったものが残る、良い仕事です。思ったように仕事ができないときもありますが、次にその点を反省して活かす事ができます。喜んでもらえることが我々の一番の喜びです。「この道ができてよかった」などといった皆さんの声を聞くと、励みになります。

* 佐竹佳名子さん (津市役所)

一口に土木といっても、その仕事内容は大変幅広いです。ですから、土木の中でも自分は何をしたいのか、どういった仕事に係わりたいのかなど、目的を持ち、あらかじめ情報収集などをして仕事に取り組んで欲しいと思います。



写真-5 女性技術者の皆さん(左が瀬戸さん、中央が佐竹さん)

みんなで集おう！「みちづくりConference（みちコン）」

全国の女性団体が大集合して、道づくりについて話し合いました（二日目の午後）。



写真-6 受付の皆さん

- 開始早々に会場は満席となり、立ち見も出ていました。会場では昨日のWSの速報が配布されました。
- 参加団体の紹介が始まりました。各団体に温かい拍手やメッセージが送られ、会場は一体となって盛り上がります。
- いよいよパネルディスカッションです。森座長が「会場全体で話し合しましょう！」と挨拶すると、会場は沸きかえりました。



写真-7 パネルディスカッションで意見を出し合う

積極的に意見が出されました

- * 「住民は要望を出すだけでなく、実際に道の事を勉強するなど、住民と行政のキャッチボールで道をつくっていきましょう！」
- * 「私の地域では“卵の割れない道”に取り組んでいます。これは、“自転車で行っているときに、カゴに入れた卵が割れないような、走りやすい道にしたいね”との主婦の提案から生まれました。」
- * 「青森では私たちNPOが「雪道安全対策勉強会」を開いています。関係機関などから講師を招いて勉強したり、私たち側から道への提案をしています。いろんな方の理解を一緒に得て、運動の輪に組み込んでいく。“使える道を自分たちの手でつくる”という観点で、これは大切だと思います。」

- 最後には、森座長が「自分の地域だけでなく、お互いに助け合いながら道がつながるようにしましょう。また、自分たちが使うものだから、自分のものだという意識を持って道を大事にしましょう。」とまとめました。

高校生から見たフォーラムは？

- * 内山みなみさん（高校一年生）（福島県）
道づくり活動に関わっているお母さんの友人に誘われて、今回初めて参加しました。お母さんたちが子どもたちのために熱心に考える姿を見て、子どもの立場としてすごく嬉しかったです。
今後もこのフォーラムを女性の手でつなげ、私達の代でも考えていけばもっと良くなると思いました。

最後に・・・

参加者数は、ワークショップ：210名、交流会：170名、探検ツアー：70名、みちコン：350名、のべ参加数は800名でした。いずれも予定人数を大幅に超えたそうです。参加者は学生、主婦、行政関係…と、本当に幅広い層からの参加でした。実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

最後に一言。ワークショップで得たものは人それぞれですが、このようにみんなと会えたつながり、これが今回得られた一番大切なものです！「つながると広がる、広がるとつながる！」

取材を終えて・・・

つながりの達人達から“つながり上手”になるコツを学び、「これで私も達人に近づけたかな？」という気がします。個人的には「沈黙は金、雄弁はプラチナ」という言葉が心に響きました。

[学生編集委員 佐竹わか菜]

今回のフォーラムのように、一堂に会して情報交換をする場が、より良い活動・より良い社会を築いていくうえで、とても重要であり、“つながり”が生む効果の大きさを認識しました。

[学生編集委員 小田僚子]

最後になりましたが、快く取材に応じていただいた女性が語る道づくり・地域づくり実行委員の皆様にご感謝いたします。どうもありがとうございました。

この記事に関する感想、ご意見は下記までお寄せください。 E-mail: edi2@jsce.or.jp